

議会人として

初当選以来、旧富山市南部地域の代表として、道路・用水・街灯等、地元要望の実現に向けて活動してきました。



議会においては、教育、障がいのある方・子供たちへの支援、また女性施策といった分野を中心に政策提言に取り組んできました。

“より良く”を追求する上で、現場に足を運び、様々な立場の方から直接意見を伺うことは、報道記者時代から変わらぬモットーです。そこに自分の考えを加え、政策へと練り上げる過程に妥協は許されないと感じています。

少子高齢化時代を迎え、社会構造が大きく変化する中、古き良き日本の価値観は守りつつも、閉塞感を打ち破るダイナミックな舵取りが求められています。次代を担う子供たちが逞しく成長し、社会の荒波を力強く生き抜くための力を身に付けられるように一、女性の方や年配の方が持てる能力を存分に発揮し、社会の活力となれるように一、ここ富山から支えていくことに今後も全力を尽くします。

ホームページ ぜひご覧ください。

Facebook

友達リクエストの際にはメッセージと一緒に送って頂くをお願いします。

Twitter

本人アカウント
奥野 詠子 (@Eiko_Okuno)

後援会アカウント
奥野詠子県議 後援会 詠桜会 (@eiokai)

<http://www.okunoeiko.jp/>

おくの えいこ 奥野 詠子

プロフィール

◎生年月日 昭和56年2月1日
◎血液型 B型
◎星座 水瓶座

経歴

平成5年3月 富山市立堀川小学校 卒業
平成8年3月 富山市立堀川中学校 卒業
平成11年3月 富山県立富山南高等学校 卒業
平成15年3月 順天堂大学 スポーツ健康科学部健康学科 卒業
中学・高等学校教諭一種免許状(保健体育)取得
養護学校教諭(現・特別支援学校教諭)免許状 取得
平成15年4月～平成22年8月 富山テレビ放送株式会社(報道部)
平成23年5月～ 富山県議会議員

富山県議会議員としての主な役職

新幹線等総合交通特別委員会委員(平成23年5月～)
教育警務常任委員会副委員長(平成25年4月～)
障害のある人の人権を尊重し、県民皆が共にいきいきと輝く富山県づくり条例
プロジェクトチーム事務局長(平成25年11月～平成26年12月)

自民党富山県連での主な役職

自民党調査会福祉環境部会副部会長(平成25年4月～)
自民党県連青年局青年局長(平成25年6月～)

その他の役職

富山県バウンドテニス協会会長	南友野球連盟顧問
富山県キンボールスポーツ連盟参与	富山南部地区少年野球協会顧問
富山県レスリング協会常任理事	社会福祉法人 堀川南会理事 等

討議資料

おくの えいこ 後援会「詠桜会」

〒939-8073 富山市大町282
TEL 076-420-3530 FAX 076-420-3536
E-mail : okuno.eiko@lime.plala.or.jp

富山県議会議員・自由民主党

夢

育つまち富山へ

おくの えいこ

笑顔と 思いやりを持って チャレンジします!!

ひとづくり

次代を担う子供たちをどう社会へと送り出すかー。

- 特別支援教育分野における専門教員の養成・確保で全ての子供たちに最適な指導を
- 教員の多忙化解消で子供と向き合う時間の確保を
- 研修メニューの充実で教員の資質向上へ
- 子育てや教育に係る相談体制の強化
- 新たな総合リハビリテーション病院・こども医療福祉センター(仮称)の機能強化
- 医療・福祉分野の労働環境改善と人材の育成・確保
- 生涯スポーツの振興で健康寿命の延伸を
- 2020 東京オリンピック・パラリンピックへ向けて競技者・指導者の育成強化を

まちづくり

北陸新幹線開業後の富山県をいかにひとにやさしいまちにしていけるかー。

- 富山きときと空港の羽田便維持と空港利活用の推進を
- 富山駅と富山きときと空港を拠点とした公共交通の見直し
- 農林水産業の発展と後継者不足の解消
- 通学路の歩道設置等、安全確保の徹底
- まちなかで使用可能な ICT 環境の整備促進
- 現近代美術館をはじめ県有施設、
県保有財産の有効活用

夢づくり

誰もが夢に向かって努力し、
チャレンジできる風土づくりー。

夢、育つまち富山

政党人として

2年前より、自民党富山県連の青年局長を拝命しました。青年局は45歳以下の党員で作る若い組織であり、同年代の政治参画を目指し活動しています。

富山県連青年局で始めた公募提案型政策コンテストは3回目を数えた平成26年度、全国展開が決定しました。38都道府県で予選会が実施され、全国大会も企画されています。地方の共通した課題が洗い出され、国策へと繋がる大きなヒントとなることを期待しています。

また平成26年度は、新たに小学校5・6年生を対象とした子供作文コンクールにも取り組みました。テーマは「わたしが総理大臣になったら」。受賞者は総理官邸にて、安倍晋三総理と面会し、総理から直接熱いエールを頂きました。

この作文コンクールが、子供のうちから地域やこの国について、関心を持ってもらうきっかけになれば幸いです。

若年層の政治離れがクローズアップされる近年、今後も未来へと繋がる様々な仕掛けづくりに取り組みます。



EIKO OKUNO